

国見学園コミュニティ・スクールだより

学校・家庭・地域が力を合わせて子どもたちの未来をつくる

令和8年3月

(事務局：国見町教育委員会教育総務課 ☎585-2119)



第5回コミュニティ・スクール委員会が2月26日（木）に開催されました。主な内容は、本年度の国見学園アクティブプランに基づく取組の評価と来年度の国見学園アクティブプラン（学校運営の基本方針）の承認です。各学校長等からの説明の後、本委員会において承認されました。

また、仙台大学体育学部子ども運動教育学科教授の柴田千賀子様からご指導・ご助言をいただきました。

令和7年度アクティブプランに基づく取組の評価について（一部抜粋）

【藤田保育所】

- ・ 身の回りのことを自分でやろうとする姿を認めることで、保育者に見守られながら身の回りのことを自分でできるようになってきた。また、できた喜びを共感されると、さらに意欲を持って取り組むことができるようになってきた。

【くにみ幼稚園】

- ・ 様々な体験活動での子どもたちの驚きや気づきを大切にして、お互いの思いや考えを交流させてきた。年長児は友達の考えを聞いたり受け入れたりして、良い考えを見出そうする姿が見られている。

【国見小学校】

- ・ 授業や様々な活動において、自分の思いや考えをきちんと表現できるような指導に努めてきたことで、主体的で対話のある学びを進めることができた。今後も自分の思いや考えを自由に表現できる子どもの育成に努めていきたい。

【県北中学校】

- ・ 授業において、どのような学びがあったかの振り返りと対話的な学びにおける教師のコーディネートに力を入れてきたことで、様々な考えが飛び交う授業になってきた。

令和8年度アクティブプランについて（一部抜粋）

○ 来年度、重点的に取り組んでいきたいことについて説明があった。

【藤田保育所】

- ・ 自分の身の回りことをしようとする姿を認め、自らやってみようとする気持ちを育てていきたい。

【くにみ幼稚園】

- ・ 子どもたちの遊びを充実させる取組に力を入れていきたい。幼稚園は遊び＝学びなので、環境整備とともに、子どもたち一人一人の活動に応じた援助を念頭に置いた保育を実践していきたい。

【国見小学校】

- ・ 主体的・対話的で深い学びの実践として、読書活動の推進を中心に取り組んでいきたい。また、コミュニケーションを大切にした学級経営と交流活動の充実、さらには道徳、人権教育の推進に力を入れていきたい。

【県北中学校】

- ・ 道徳教育と人権教育に力を入れ、子ども同士が互いを認め合い、高め合っていく学級集団づくりに努めていきたい。また、教職員が率先垂範して、子どもたちを認めながら学習指導や生徒指導を進めていきたい。



国見町では充実した活動が行われていることを感じる。他の市町村の方から羨ましがられている。保幼小中での一貫した取組はこの町だからこそできることであると感じる。アクティブプランの4つの柱が保育所から中学校まで繋がっているのは素晴らしいことだと思う。

放課後塾ハルの活動を数多く取り上げていただきありがとうございます。「クニミノホマレ」という活動が今年度で2回目となりました。「ホマレ」という言葉は「誇り」という言葉からきており、子どもたちや町民の方に、ふるさとを誇りに思ってもらおうという意味でもあります。

町のことを本気で考えている小中学生がいることを、町の「ホマレ」として受け取っていただければという願いを込めたイベントになっています。今回は子どもたちが未来を提示することをメインとしています。この活動を続けていくことで、町を巻き込んで大きな活動になっていくことを願っています。



国見町は教育の物語を描きやすい町である。（一部抜粋）

～指導・助言 仙台大学体育学部子ども運動教育学科教授 柴田千賀子 様～

〈不確実な時代を生きる子どもたちに町ができることは〉

- 子どもは環境によって育つ。正解のない時代を生きる子どもたちに大切な力を育むのも環境である。環境とは建物や教材だけではない。大人の眼差しだったり、地域の空気であったり、町の文化などの全てである。町全体が教育環境である。

〈CS、国見学園アクティブプラン、地域学校協働活動等の取組の重要性〉

- 本日の協議内容が、国見町がどんな子どもたちを育てたいのかという問いへの答えであると思う。CSの本質は学校を地域に開くことではないと考える。教育の責任を社会全体が担う仕組みをつくることだと考える。その意味でも繋がる教育をデザインしている国見町の取組は素晴らしいことだと思う。

〈国が現代の教育に求めていること〉

- 不確実な社会において、子どもたちが自分で考え、他者と対話して、失敗しても立ち直ることができる子どもを育てることが求められている。これらを育むために重要なのは安心できる土台や居場所、心地よさ、いわゆるwell-beingが重要になってくる。安心して挑戦できる環境、地域に見守られている感覚が必要であることを強くお伝えしたいと思う。

〈国見町ができることは〉

- 小さな町だからこそ可能な顔の見える教育は大きなメリットとなる。保育、学校、地域、行政、それぞれの立場が物理的にも心理的にも近いのが大きな強みである。子ども未来塾や放課後子ども教室、家庭教育支援が一体となっていることは、学力や体験、家庭支援を包括する教育モデルとも言える。大いに誇れる点である。

〈国見町だからこそできることは〉

- 教育の物語を町として共有することだと考える。幼少期に豊かな自然の中でのびと育ち、小学校では地域全体で支えられる教育を受け、中学校では様々なことに挑戦し、子ども未来塾で世界に目を向けていくことを学ぶ。世界に目を向けることで、国見町の神楽や例大祭などの文化がさらに心にしみてくるものである。一貫した教育の物語を描ける町はそう多くはないと思う。国見町は教育の物語を描きやすい町だと感じている。このことを町全体に共有していただきたい。